論文の内容の要旨

論文題目　中国の輸出抑制策がレアアース市場に与える影響とその対策に関する研究

氏　　名　福田　一徳

本論文は，最近特に政治・経済の両面において大きな注目を集めているレアアースをテーマとした研究である。我が国は，レアアースの国内需要のほぼ全量を海外からの輸入に依存しており，そのうちの約 9 割を中国から調達している。ところが，過去数年の間に，中国はレアアースの輸出抑制策を著しく強化している。この動きを受けて，我が国では，レアアースに関する供給不安が高まっている。

本論文では，レアアースをめぐる様々な問題のうち，特に中国の資源政策全体における輸出抑制策の位置づけ，輸出抑制策がレアアース市場に与える経済的影響，輸出抑制策の国際法上の問題点に焦点をあてて分析を行った。また，以上の 3 点を中心とした分析を踏まえた上で，今後の我が国のレアアース対策のあり方について政策提言を行った。なお，レアアースについては，これまで主に地質学や材料工学の観点から多くの研究がなされてきたが，社会科学の側面からアプローチを行った研究は非常に少ない。とりわけ，上記の 3 点を総合的に取り扱った研究は，本論文が初めてである。

本論文の第 1 章では，レアアースに対する注目が高まっている現状を紹介した上で，なぜレアアースの問題が我が国にとって極めて重要なのかを説明する。また，先行研究を概観するとともに，今後我が国が効果的なレアアース対策を実施するためには，上述の 3 点を含めたレアアースをめぐる各種の問題に関する正確かつ体系的な理解が必要であることを述べる。そして，そのような体系的な理解の向上に貢献し，かつ今後のレアアース対策のあり方に関する政策提言を行うことが本論文の目的であることを述べる。

第 2 章では，レアアースの定義にはじまり，その用途や需給の現状と見通し等，レアアースに関する基礎的な事実関係を整理して示す。レアアースは，それ自体の需要は比較的小さいものの，多種多様な製品に高い付加価値や機能を与えるために必要不可欠の原料であり，我が国の産業競争力強化や地球温暖化対策をはじめとする環境対策に極めて重要な役割を果たしていることを述べる。

レアアースの需要については，世界的に大きく伸びており，今後は地球温暖化対策の進展等に伴いさらに急速に伸びる可能性があることを示す。供給については，現状では中国がほぼ独占しているものの，レアアースの鉱床自体は世界各地に分布しており，過去には米国等の様々な国で生産が行われていたことを述べる。また，レアアースの資源量は比較

的豊富であるものの，「重希土」に属するレアアース元素を産出する鉱山は限られており，現状では「重希土」の生産は中国に極端に集中していることを示す。

第 3 章では，中国の非鉄金属政策について分析を行う。中国は多くの非鉄金属について世界有数の生産国であるが，近年の急激な経済成長等によって非鉄金属の消費量が大幅に拡大したことから，世界有数の消費国にもなっていることを紹介する。そして，中国の非鉄金属需給の状況は，「国内の需給が逼迫しつつある非鉄金属」と「圧倒的な供給力をベースに世界市場を支配できる非鉄金属」の 2 つのグループに分類できることを明らかにする。

さらに，中国政府が発表した非鉄金属関連の各種文書を分析することにより，需給の 2 つの側面はそれぞれ中国の非鉄金属政策に反映されており，政策にも 2 つの側面があることを示す。そのうちの 1 つの側面が，中国が圧倒的な供給力を有するレアアース等の各種資源の生産や輸出を制限することであり，中国がそれらの措置を通じて国内産業の高度化を目指しているとみられることを説明する。また，中国が実施している各種の輸出抑制策の詳細な内容を紹介する。

第 4 章では，中国の輸出抑制策がレアアース市場に与える影響に関する経済学的な分析を行う。具体的には，計量モデルを用いて，中国の輸出抑制策のうち増値税の還付引き下げと輸出税の引き上げが 2003 年 6 月から 2008 年 6 月までのレアアース価格に与えてきた影響を分析する。

この分析の結果としては，①中国による上記措置の実施後にレアアース価格が有意に上昇する強い傾向があることと，②上記措置が繰り返し実施される中で，措置実施後の価格上昇が従来よりも早いタイミングで起きるようになっていること，の 2 点が得られている。①の結果から，中国の輸出抑制策は近年の急激なレアアース価格上昇の原因の 1 つであることが明らかになったと考える。

また，上記②が生じた理由については，さらにゲーム理論を用いた考察を行い，上記措置の度重なる実施によって中国のレアアース輸出者にとっての合理的な行動が変質したことが背景にあると考えられることを示す。すなわち，度重なる輸出抑制策の強化が，従来は競争関係にあった中国のレアアース輸出者間に協調を成立させ，その結果，中国全体が独占的供給者として振舞うことが可能になり，そのことが上記②を生じさせたと考えられることを述べる。

さらに，上記①，②の結果を踏まえ，中国の輸出抑制策が我が国を含む世界のレアアース消費者に与える影響について考察を行う。ここでは，中国の輸出抑制策によって，狭い意味でのレアアース消費者（中国から直接レアアースを輸入する企業）のみならず，広い意味でのレアアース消費者（レアアースを原料に含む製品を生産する企業や，当該製品を購入する一般消費者）にも幅広く影響が及ぶと考えられることを示す。また，急激な価格上昇は，スムーズな価格転嫁を困難にすることを通じ，特にレアアースを原料に用いる部材メーカーの収益を圧迫すると考えられることを説明する。

第 5 章では，各種資源に対する中国の輸出抑制策の国際法上の問題点について検討する。

具体的には，中国の輸出抑制策のうち，輸出数量制限と輸出税のＷＴＯ協定整合性を検討する。

過去数年の間に著しく強化された中国の輸出抑制策は，我が国のみならず米国や欧州をはじめとする多くの国・地域の懸念事項となっている。2009 年夏には，米国，欧州，メキシコによって，中国の輸出数量制限や輸出税等の措置がＷＴＯ協定に違反している疑いがあるとの申立てが行われ，以後本件に関するＷＴＯの紛争解決手続が進められている。本件は，輸出数量制限及び輸出税のＷＴＯ協定整合性を正面から取り扱う初の事例であり，ＷＴＯの紛争解決機関が本件について今後どのような法的判断を示し，その内容が中国の政策決定にどのような影響を与えることになるのかが非常に注目される。

この章では，まず，ＷＴＯの紛争解決手続の全体像や，輸出規制に関連する過去の紛争事例を簡単に紹介する。次いで，中国の輸出抑制策に関する本紛争案件の経緯や，紛争当事国（米国，欧州，メキシコ，中国）による主張の内容及び主要な争点について説明する。また，本論文執筆時点（2010 年 9 月中旬）では，本紛争案件に関するＷＴＯの「紛争解決小委員会（パネル）」による法的判断は示されていないが，この章ではそれに先立って，中国の輸出数量制限及び輸出税がＷＴＯ協定に整合的な措置として認められるかどうかを検討する。この点については，ＷＴＯの関連協定，紛争当事国から示された主張の内容，過去のＷＴＯの判例等を参考にしながら詳細な分析を行う。

第 6 章では，第 2 章から第 5 章までの分析を踏まえた上で，今後の我が国の「レアアース対策」のあるべき姿に関する詳細な政策提言を行う。具体的には，既に政府を中心に実施されている「レアメタル対策」の内容を吟味した上で，「レアメタル対策」の 4 つの柱（海外での資源確保，リサイクル，代替材料開発，備蓄）のそれぞれについて，レアアースを対象とした更なる対策の方向性や，更なる対策を実施する上での課題及び留意事項を指摘する。また，上述の 4 つの柱に関する考え方に加え，国際的な枠組の中で進めることが可能な対策のあり方について考え方を述べる。ＷＴＯをはじめとした多国間の枠組の活用方法や，中国との対話を通じたレアアースの安定供給確保の仕組み作りの可能性などについて言及する。

最後に，第 7 章では，第 2 章から第 6 章までの内容を簡単にまとめた上で，全体の結論を示す。とりわけ，予算等の限りある政策資源をレアアース対策に継続して重点的に投入するとともに，我が国の産学官のレアアース関係者が持つ様々な知見を一体的に活用し，効果的・効率的な対策を実施することの重要性を強調する。

以上が本論文の概要である。なお，レアアースをめぐる情勢はめまぐるしく変化しているが，本論文では 2010 年 9 月中旬までの状況に基づいて考察を行った。